

東北農研シンポジウム
「鉄鋼スラグは有望な農業資材となり得るか？－農業分野での技術開発の可能性を探る－」

開催要領

農研機構東北農業研究センター
生産環境研究領域長 御子柴義郎

1. 趣 旨

鉄鋼スラグの中でも特に転炉スラグを用いて、土壌 pH を 7.5 前後に改良することにより土壌病害の被害を軽減する技術が、農研機構とその共同研究機関との連携により開発された。この技術は、野菜栽培の最適 pH は 6.5 であるとの従来の常識を超えるものであるため、野菜の肥料成分や重金属の吸収にも影響を与え、減肥や重金属の吸収抑制の効果をもつ。したがって、土壌病害対策として本技術を生産現場に導入する際に、これらの有用な特性も同時に活用することで、農産物の安全・安心の向上はもとより、農家経営における栽培コスト削減にも寄与できると期待される。

そこで本シンポジウムでは、土壌病害対策として開発した新技術の有用性、ならびに本技術が作物の生育や肥料・重金属の吸収に与える影響について情報共有を図るとともに、被害軽減機構の解明に関する研究成果や、他分野への利用に向けた取り組みの現状をふまえ、鉄鋼スラグの特性を活用した農業分野での新たな技術開発の可能性について議論する。

2. 主 催 農研機構東北農業研究センター

3. 後 援 東京農業大学、日本土壌肥料学会、日本植物病理学会（予定）

4. 日 時 平成 27 年 11 月 27 日（金）10:00～16:30

5. 場 所 東京農業大学横井講堂
(〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1 Tel 03-5477-2207)

6. 参集範囲 大学、行政・普及指導機関、公立研究機関、企業・民間団体、生産者、農研機構 等

7. プログラム

1) 開会挨拶

2) 基調講演

鉄鋼スラグを農業生産現場で活用するための研究開発と普及

東京農業大学名誉教授 後藤逸男

3) 話題提供

(1) 土壌病害の被害軽減技術への利用

(座長：農研機構東北農業研究センター 御子柴義郎)

① 東北地域における野菜類土壌病害の被害軽減技術への利用

(地独) 青森県産業技術センター農林総合研究所 岩間俊太

② 転炉スラグ施用時の肥培管理と復田した場合の影響

(地独) 青森県産業技術センター農林総合研究所 谷川法聖

③ 栽培農家での利用の現状と経営評価

JA とぴあ浜松 高倉克弥

(2) 土壌病害の被害軽減機構の解明とその利用

(座長：農研機構東北農業研究センター 永坂 厚)

①被害軽減機構解明の取り組み

農研機構東北農業研究センター 門田育生

②土壌微生物の動態から見た転炉スラグの特性

農研機構北海道農業研究センター 森本 晶

③新たな防除技術開発に向けて

農研機構東北農業研究センター 今崎伊織

(3) 新たな分野への利用

(座長：農研機構東北農業研究センター 御子柴義郎)

①作物のカドミウム吸収抑制への利用

東京農業大学応用生物科学部 大島宏行

②藻場造成等海域利用に向けた取り組み

新日鐵住金(株)先端技術研究所 加藤敏朗

③水田で発生するメタン制御利用に向けた取り組み

千葉大学園芸学部 犬伏和之

4) 総合討論 (座長：農研機構東北農研 門田育生)

5) 閉会挨拶

8. 連絡先 (開催事務局)

農研機構東北農業研究センター 産学官連携支援センター

Tel/Fax : 019-643-3460、E-mail : sangaku@ml.affrc.go.jp